

2022年11月17日
四国旅客鉄道株式会社
西日本旅客鉄道株式会社
京都鉄道博物館

「しおかぜ」「南風」運行開始 50 周年記念 キハ 185 系特急形気動車(復刻国鉄色)特別展示 関連イベントのお知らせ

京都鉄道博物館では、JR西日本の営業路線と繋がった引込線を活用し、国鉄末期に四国地区で特急車両として導入され、2017年「四国デスティネーションキャンペーン」実施の際に国鉄当時の塗色を復刻したキハ185系特急形気動車を展示するほか、展示に合わせた様々なイベントを実施します。

今回の特別展示は、JR四国の『しおかぜ』『南風』運行開始50周年記念キャンペーン」第8弾として運行開始50周年イヤーのラストを飾るものです。

※営業路線を運転して搬入するため、輸送上の都合により展示を中止する場合があります。



▲画像はイメージ

- 【展示期間】12月9日(金)～20日(火) ※休館日を除く
- 【展示場所】本館1F「車両のしくみ/車両工場」エリア
- 【展示車両】キハ185系特急形気動車(復刻国鉄色 2両)



関連イベントはこちら！

1. 「しおかぜ」「南風」ヘッドマーク掲出！

展示車両（キハ185系）に、運行当時の「しおかぜ」「南風」の姿からデザインをおこしたヘッドマークを掲出します。また、「しおかぜ」「南風」に使用されていた当時の仕様の側面方向幕も再現します。

【開催日等】12/10(土)・11(日)・17(土)・18(日)

【開催時間】開館中

【開催場所】本館1階 車両工場エリア



▲「しおかぜ」ヘッドマーク



▲「南風」ヘッドマーク

2. すまいるえきちゃん、ウメテツ グリーティング

特別展示の開催にあわせて、JR四国の公式イメージキャラクター「すまいるえきちゃん」がやって来ます。当館の公式キャラクター「ウメテツ」も一緒に登場します♪

【開催日】12/17(土)・18(日)

【開催時刻】①10:30 ②13:00 ③15:00

【開催場所】本館1階 車両工場エリア

※所要約15分



3. 四国の観光PR及びJR四国グッズなども販売

特急「しおかぜ」「南風」を運行している四国エリアのPRと、JR四国の鉄道やキャラクター等のグッズ販売を実施します。

【開催日】12/9(金)～11(日)、17(土)・18(日)

【開催時間】10:30～16:00

【開催場所】本館1階 車両工場エリア

※今回の注目商品は、四国特急運行開始50周年記念の記念入場券と記念きっぷです。記念入場券は6駅(枚)1セット、記念きっぷは記念乗車券と記念自由席特急券を1セットで発売します。



※詳細は「模型工房パーミル」サイトを参照
※写真は商品組立後のものです

また、模型工房パーミル製「2000系TSE編成ペーパーキット」は、同社のご協力により再販が決定しました。全国的な販売再開を前に当会場で先行販売します！会場内での販売数に限りがございますので売切れの際はご容赦ください。

4. 特別講演会

「しおかぜ」「南風」をはじめ四国の特急列車の歴史に名を遺す「2000系特急形気動車」。この車両開発に深く関わったJR四国松田清宏顧問をお招きし、当館館長の前田昌裕と、2000系の開発や導入のエピソードや「しおかぜ」「南風」からの引退についての思いなどについて講演します。

【開催日】12/17(土)

【登壇者】四国旅客鉄道株式会社
顧問 松田 清宏(まつだ きよひろ)氏
京都鉄道博物館
館長 前田 昌裕(まえだ まさひろ)

【テーマ】2000系特急形気動車の誕生と「しおかぜ」「南風」からの引退

【開催時刻】14:00 ※所要約60分

【開催場所】本館3F ホール

【参加人数】50名

【参加方法】電子チケット「アソビュー！」で発売する参加券(ノベルティ付き)が必要です。

参加券について

- ・販売価格…300円
- ・商品内容…講演会参加券+ノベルティ
- ・販売期間…2022年12月9日(金)16:30~講演会当日の13:59 ※売切次第終了
※変更、キャンセルは前日23:59まで可能。



四国旅客鉄道株式会社

顧問

松田 清宏(まつだ きよひろ)氏

1969年に日本国有鉄道に入社。1987年に四国旅客鉄道株式会社総合企画本部経営管理室長を務める。以降、運輸部長、取締役旅行業事業部長、常務取締役鉄道事業本部長、2004年に代表取締役社長、2010年に代表取締役会長に就任、現在は同社顧問。



京都鉄道博物館

館長

前田 昌裕(まえだ まさひろ)

1982年に日本国有鉄道に入社。2001年に西日本旅客鉄道株式会社鉄道本部運輸部次長を務める。以降、広報室担当室長、鉄道本部安全推進部担当部長、中国ジェイアールバス株式会社代表取締役社長等を務め、2021年に公益財団法人交通文化振興財団代表理事専務理事および京都鉄道博物館館長就任。